

2023年度企画展 「山岡順太郎と千里山住宅地―郊外理想郷の誕生―」の記録

はじめに

2023（令和5）年4月1日から2024（令和6）年3月20日まで関西大学年史編纂室年史資料展示室にて2023年度年史資料展示室企画展「山岡順太郎と千里山住宅地―郊外理想郷の誕生―」を開催した。

現在、年史編纂室では、山岡家より2000点を超える山岡順太郎総理事に関わる資料を借用し、整理、調査作業を行っている。その過程で山岡総理事が社長を務めた大阪住宅経営株式会社の簿冊を確認し、2023年が千里山入居100周年にあたることから、大阪住宅経営やその経営地である千里山住宅地や鶴ヶ丘住宅地などに関する資料を展示した。なお会期を4期にわけて、展示替えを行った。以下、展示会の内容を紹介する。

一 展示パネル

年史資料企画展示室には大型パネル（ごあいさつ、千里山住宅地写

真、千里山住宅地チラシ・広告類、パンフレット）を設置し、大型展示ケースと平型展示ケースに関連資料を展示した。

ごあいさつ

大阪商業会議所第8代会頭（1917～1921）を務めた山岡順太郎（1866～1928）は大阪経済の発展には大阪市内の会社に勤める人たちの住宅難の解消が急務で



展示室の様子（【第1期】）

あると考え、1920（大正9）年に大阪住宅経営株式会社を創立し自ら社長に就任しました。同社は現在の阪急千里線を敷いた北大阪電気鉄道株式会社所有の千里山の土地を譲り受けて住宅地開発を行い、千里山住宅地が誕生しました。

一方、1921（大正10）年に十三ヶ千里山間を開通した北大阪電鉄は、旅客を安定的に確保するために住宅地だけでなく、学校施設や遊園地を含めた総合的な開発を計画していました。また、大学昇格を目指していた本学は、大阪財界の重鎮であった山岡順太郎を総理事に迎え、1922（大正11）年に学舎を開設しました。そして、総理事となり大学昇格に尽力したのが、山岡順太郎でした。千里山の開発をとおして、北大阪電鉄と大阪住宅経営、関西大学の三者は密接な関係を築き上げていきました。

山岡が郊外の理想郷として作った千里山住宅地は、2023（令和5）年に入居100周年を迎えます。企画展では、山岡の手元にあった大阪住宅経営関係の書類のなかから千里山住宅地平面図やパンフレットなどを展示します。

展示会の開催にあたり、貴重な資料の貸与にご高配を賜りました山岡家に深く感謝申し上げます。

2023年4月

関西大学年史編纂室



山岡順太郎（1866～1928）
大阪住宅経営株式会社社長、関西大学総理事
個人蔵

ごあいさつ

大阪商業会議所第8代会頭（1917～1921）を務めた山岡順太郎（1866～1928）は大阪経済の発展には大阪市内の会社に勤める人たちの住宅難の解消が急務であると考え、1920（大正9）年に大阪住宅経営株式会社を創立し自ら社長に就任しました。同社は現在の阪急千里線を敷いた北大阪電気鉄道株式会社所有の千里山の土地を譲り受けて住宅地開発を行い、千里山住宅地が誕生しました。

一方、1921（大正10）年に十三ヶ千里山間を開通した北大阪電鉄は、旅客を安定的に確保するために住宅地だけでなく、学校施設や遊園地を含めた総合的な開発を計画していました。また、大学昇格を目指していた本学は、大阪財界の重鎮であった山岡順太郎を総理事に迎え、1922（大正11）年に学舎を開設しました。そして、総理事となり大学昇格に尽力したのが、山岡順太郎でした。千里山の開発をとおして、北大阪電鉄と大阪住宅経営、関西大学の3者は密接な関係を築き上げていきました。

山岡が郊外の理想郷として作った千里山住宅地は、2023（令和5）年に入居100周年を迎えます。企画展では、山岡の手元にあった大阪住宅経営関係の書類のなかから千里山住宅地平面図やパンフレットなどを展示します。

展示会の開催にあたり、貴重な資料の貸与にご高配を賜りました山岡家に深く感謝申し上げます。

2023年4月

関西大学年史編纂室

ごあいさつ

千里山住宅地 写真

①千里山住宅地

昭和時代初期 個人蔵

南側から撮影した航空写真。線路を挟んで東側に1926(大正15)年に建てられた千里尋常小学校分教場の校舎や千里山住宅地内の噴水などが確認される。

②千里山住宅地

1933(昭和8)年ごろ 関西大学年史編纂室蔵

1933(昭和8)年関西大学学部卒業アルバム掲載。線路を挟んで東側から西側の千里山住宅地を撮影したもの。

③千里山住宅地 噴水

1925(大正14)年ごろ 個人蔵

『千里山住宅案内』の表紙に掲載されたもの。

④千里山住宅地 街並み

1923(大正12)年ごろ 関西大学年史編纂室蔵

千里山住宅地内の様子を撮影したもの。

⑤千里山住宅地 日本住宅

1923(大正12)年ごろ 関西大学年史編纂室蔵

千里山住宅地に建てられた日本住宅。

⑥千里山住宅地 改良住宅

1923(大正12)年ごろ 関西大学年史編纂室蔵

千里山住宅地に建てられた改良住宅。

⑦千里山開発記念碑

1928(昭和3)年 個人蔵

1928(昭和3)年に建てられた大阪住宅経営による千里山の開発の歴史を刻んだ石碑。設置当初の様子を撮影したもの。

千里山住宅地 チラシ・広告類、パンフレット

①チラシ

1922年(大正11)年ごろ 38・3×26・3cm 個人蔵

両面印刷。表面の上部に千里山住宅地、下部に鶴ヶ丘住宅地のイラストを載せる。千里山住宅地には平面図も併せて掲載。裏面には1922(大正11)年に日本建築協会が開催した住宅改造博覧会に同社が出品した改造住宅のパース図と間取図を載せている。

②チラシ

1923(大正12)年ごろ 38・6×26・6cm 個人蔵

千里山住宅地の様子、日本住宅、改良住宅の写真と間取図をそれぞれ載せる。背景のイラストを取り除いたものが、1923(大正12)年10月に刊行された関西大学の学内機関誌『千里山学報』第13号に掲載されている。

千里山住宅地 写真



1 千里山住宅地 昭和時代初期



2 千里山住宅地 1933(昭和8)年ごろ 1933年関西大学学部卒業アルバム掲載
線路を挟んで東側(関西大学側)から西側の千里山住宅地を撮影したものを。



3 千里山住宅地 噴水
1925(大正14)年ごろ
「千里山住宅案内」掲載



6 千里山住宅地 改良式住宅
1923(大正12)年ごろ



4 千里山住宅地 1923(大正12)年ごろ



7 千里山開発記念碑
1928(昭和3)年



5 千里山住宅地 日本式住宅
1923(大正12)年ごろ

千里山住宅地 写真 (パネル)

③ チラシ

1925(大正14)年 15・5×22・8cm 個人蔵
「愈々本月中旬 新京阪電車天神橋六丁目より直通」とあることから、淡路〜天神橋間開通直前に作成されたもの。千里山住宅地の設備として、上水道、暗渠下水道、銀行、ガス、電熱、マーケット、浴場、医院などをあげている。

④ チラシ

1926(大正15)年 22・9×31・1cm 個人蔵
上部の千里山住宅地、下部の天六(天神橋筋六丁目)を1925(大正14)年に複線化された線路でつなぐデザイン。「上水道施設ノ宏大ナ事ハ郊外住宅地中第一トス」として、同住宅地の上水道施設の良さをアピールしている。

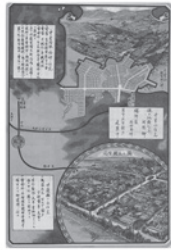
⑤ 広告

1925(大正14)年 15・1×54・8cm 個人蔵
左側に赤瓦を葺いた住宅のある千里山住宅地と右側にビルがみえる天六、梅田を赤色の線(線路)でつなぐデザイン。中央に「天六直通期近づく今が買時」、淡路〜天神橋間の線上に「此間近々開通」とあることから、1925(大正14)年10月以前に作成された電車の車内広告とみられる。

⑥ パンフレット

1925(大正14)年ごろ 15・4×54・2cm 個人蔵

千里山住宅地 チラシ・広告類



1 1922(大正11)年ごろ 両面印刷 38.3×26.3cm



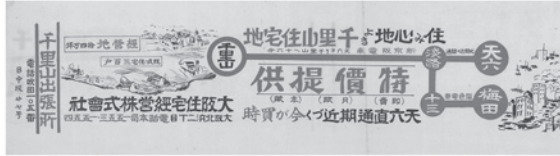
2 1923(大正12)年ごろ 38.6×26.6cm



3 1925(大正14)年 15.5×22.8cm



4 1926(大正15)年ごろ 22.9×31.1cm



5 1925(大正14)年 15.1×54.8cm

千里山住宅地 パンフレット

6 1925(大正14)年ごろ 両面印刷 15.4×54.2cm



千里山住宅地 チラシ・広告類、パンフレット (パネル)

両面印刷。住宅8戸について、外観の写真、敷地面積、建坪、価格、間取図、支払方法をまとめたもの。表紙の噴水をはじめとするパンフレットに掲載された写真は、1925(大正14)年ごろの千里山住宅地の様子がわかる上で貴重である。

二 展示品

【第1期】

大阪住宅経営と大阪府三島郡千里村大字佐井寺(現在の大阪府吹田市千里山西)に造られた千里山住宅地に関する資料を展示した。

定款

1920(大正9)年 個人蔵

定款は会社を運営する上での基本的な原則を定めたもので、「会社の憲法」とも呼ばれる。第1章第5条「本会社ノ株主ニ対スル毎期利益金配当ハ年六朱ヲ超ユルコトヲ得ス」として配当金の額に制限を加えており、営利企業でありながら公共性の強い大阪住宅経営の性格がうかがえる。

大阪住宅会社ノ郊外住宅経営方針

1923(大正12)年ごろ 個人蔵

大阪住宅経営株式会社専務取締役 柿崎欽吾(1863~1924)が大鐘彦市の依頼に応じて、主に千里山住宅地について述べたもの。全10頁。その内容から、千里山住宅地では建築線を設定し、塀を作らずに生垣を作るなど、景観に配慮した街づくりが行われていたことがわかる。

千里山住宅地平面図

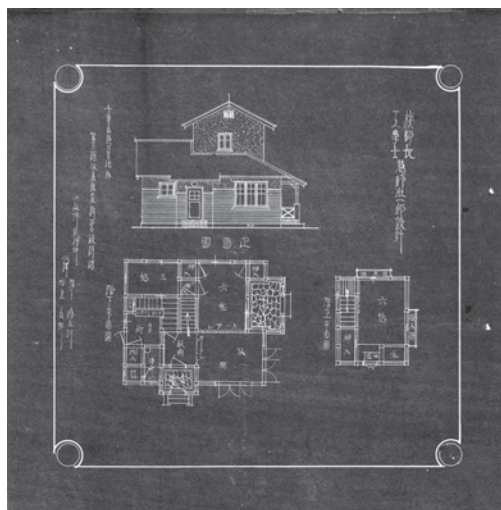
1924 (大正13) 年ごろ 39×54cm 個人蔵

千里山住宅地内の居住部分(淡紫色)、販売部分(淡藍色)、工中部分(緑色)、計画部分(赤色)を4色に色分けする。左上部に改良住宅、右上部に日本住宅の写真と間取図、下部には千里山住宅地や住宅の概要をそれぞれ掲載する。

千里山経営地内 第三期改良家屋新築設計図

1924 (大正13) 年ごろ 28・4×27・8cm 個人蔵

大阪住宅経営株式会社技師長 葛野壮一郎(1880~1944)による改良住宅の設計図。1928 (昭和3) 年に建てられた千里山開発記念碑に「前技師長 葛野壮一郎」とみえ、葛野が大阪住宅経営の技師長を務めていたことは知られていたが、展示品から住宅の設計に携わっていたことが具体的に確認された。



千里山開発記念碑

1928 (昭和3) 年 27・5×21cm 個人蔵

1928 (昭和3) 年、大阪住宅経営は新京阪鉄道に事業と資産を譲り解散するにあたり、千里山での開発の歴史や同社の役員及び社員の名前を刻んだ記念碑を広場に建てた。展示品は、設置当初の様子を撮影したもの。

【第2期】

千里山住宅地の居住者間の親睦を図る千里倶楽部とその活動拠点となった千里会館に関する資料を展示した。

第四回事業報告書

1924 (大正13) 年 個人蔵

居住者が増加するにしが、居住者から倶楽部の設立を要望する声があがった。それをうけて、大阪住宅経営は住宅地の中央に設けた遊園地の一角に「会館」(千里会館)を建て、千里倶楽部の事務所を置いた。

千里会館規約

1924 (大正13) 年ごろ 個人蔵

千里会館の使用及び管理について必要な事項を定めたもの。全11条。展示品にみえる鉛筆による書き込みは大阪住宅経営株式会社社長 山岡順太郎によるもので、山岡が内容を確認した上で、指示を与えていたことがわかる。

議案

1925 (大正14) 年 個人蔵

1925 (大正14) 年2月13日に大阪倶楽部で開催された大阪住宅経営の重役会での議案。議案第二に小学校設置場所に「会館」をあげる。当時、千里山住宅地に住む児童は、関西大学予科校舎に置かれた千里尋常小学校分教場に通っていた。

千里山住宅地平面図

1925 (大正14) 年ごろ 46・4×62・2 cm 個人蔵

右下の「経営地位置図」では、未成線である淡路〜天神橋間が点線

で表現され、左上の両区間開通による乗車時間の比較や右下に掲載された「落成セル新京阪電車鉄橋」の写真などから、展示品は1925 (大正14) 年10月15日の天神橋〜淡路間開通が直前に迫ったところに作成されたものとみられる。

千里山住宅地平面図(口絵掲載)

1925 (大正14) 年ごろ 46×62 cm 個人蔵

遊園地の一角の建物の表記が「会館」ではなく、「学校」である。これは、1925 (大正14) 年10月に千里尋常小学校分教場が関西大学予科校舎から千里会館に移転してきたことによる。

千里山住宅地平面図(口絵掲載)

1926 (大正15) 年ごろ 46×62 cm 個人蔵

平面図の「会館」の表記が「学校」から「会館」に変更されている。1926 (大正15) 年、千里尋常小学校分教場は校舎を建て移転した。このことから展示品は、分教場の移転後に作成されたものとみられる。

【第3期】

大阪府東成郡田辺町大字松原(現在の大阪府大阪市東住吉区山坂)に造られた鶴ヶ丘住宅地の資料を展示した。

チラシ

1922 (大正11) 年ごろ 38・3×26・3 cm 個人蔵

表面は、上段に千里山住宅地、下段には鶴ヶ丘住宅地のイラストを

載せる。裏面には1922（大正11）年に開催された住宅改造博覧会に大阪住宅経営が出品した住宅のパース図や間取図などを掲載する。

チラシ

1922（大正11）年ごろ

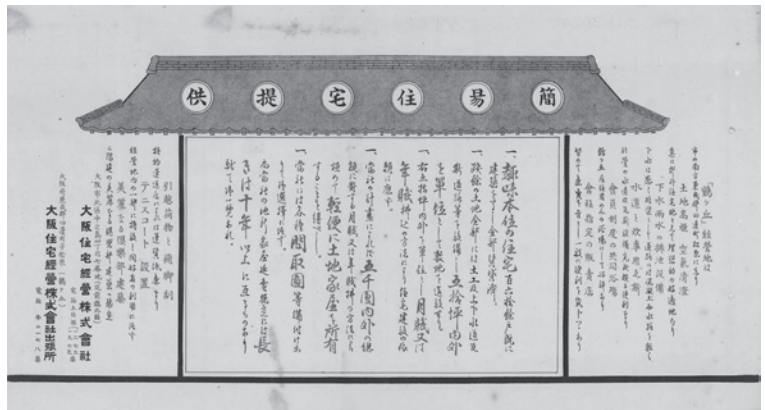
21×38・5cm 個人蔵

鶴ヶ丘住宅地の環境が比較的乾燥し空気が澄みきつていて清らかであること、生活に欠かせない上下水道、ガス設備が整っていることなどを宣伝する。また、宅地の分譲に割賦（月賦、年賦）販売の用意があることを強調している。

田辺町経営新築住宅間取集全部九葉

1922（大正11）年ごろ 27・1×26cm 個人蔵

大阪住宅経営株式会社技師長 葛野壯一郎の間取図9点で、内訳は7点が日本住宅、2点が改良住宅である。改良住宅No.3、4は画地の一角を円弧状に切りとられていることから、鶴ヶ丘住宅地の中央の交差点に面して建てられた住宅の間取図であることがわかる。



鶴ヶ丘経営地住宅配置及売却土地分割図（口絵掲載）

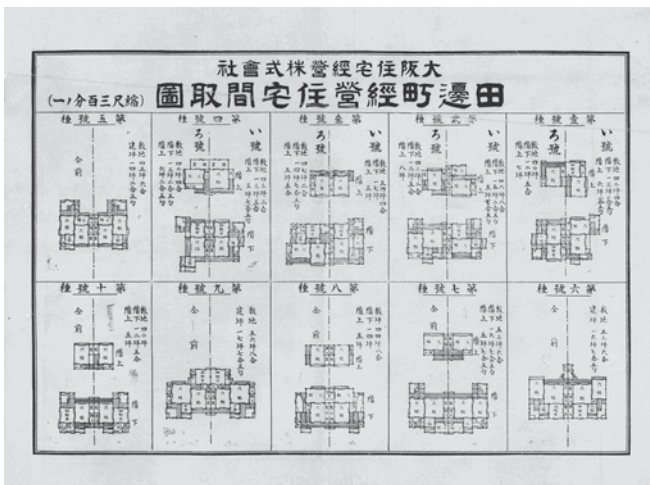
1922（大正11）年ごろ 39・8×54・4cm 個人蔵

鶴ヶ丘住宅地は南北に細長い造成地で、町割りは単純な格子割りである。大阪住宅経営株式会社顧問 橋本八重三が、住宅地の町割り、施設などを計画し、住宅地内を貫通する縦横の道路名に並木として植えた樹木の名称を用いることを発案したという。

田辺町経営住宅間取図

1922（大正11）年ごろ 30・3×41cm 個人蔵

鶴ヶ丘住宅地に建てられた貸家の間取図10種。その内訳は二階建が7種、平家建は3種である。「鶴ヶ丘経営地住宅配置及売却土地分割図」によると、同地には二階建が100戸、平家建が56戸建てられた。最も多く建てられた住宅は、二階建が10号、平家建は6号であった。



【第4期】

千里山住宅地で最初に建てられた貸家99戸に関する資料を展示した。

第二回事業報告書

1922 (大正11) 年 個人蔵

第1期工事では、千里山住宅地の中央部約4万4千坪余の開発が行われた。1922 (大正11) 年3月時点で、中央部の西側の切土、盛土、街路、敷地の区画、土留、石垣、道路の側溝敷設、下水道埋設等の諸工事がほとんど完了していた。

第三回事業報告書

1923 (大正12) 年 個人蔵

土工事などが完了した中央部の西側に貸家99戸が建てられた。大阪住宅経営は、1923 (大正12) 年3月より99戸の賃貸を開始し、1924 (大正13) 年の同社の『第四回事業報告書』には空き家がないほどの盛況であると書かれている。

千里山住宅家賃表

1923 (大正12) 年ごろ 個人蔵

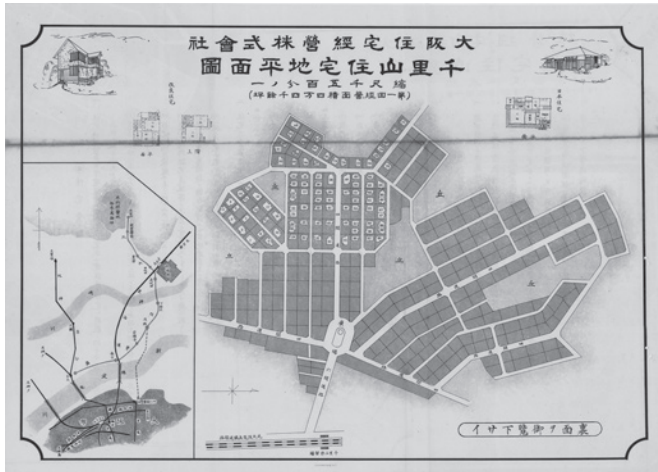
貸家の配置図番号、種別、建坪、敷地坪、家賃を掲載したもの。一見すると、93戸の内容しか載せられていないが、20のような2戸1棟を

それぞれ数えると、99戸になる。

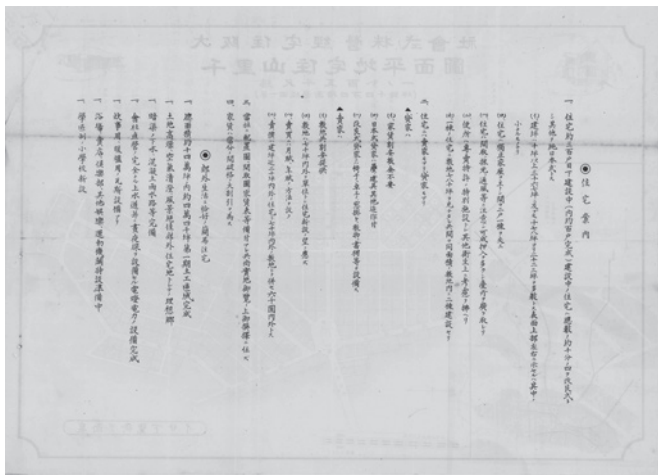
千里山住宅地平面図(口絵掲載)

1923 (大正12) 年ごろ 38・7cm×53・8cm 個人蔵

区画内の輪郭は住宅の輪郭を示し、1番から93番までの数字がふられている。なお赤く着色された部分は、土工事が完了した土地であることを示す。裏面に「住宅案内」「郊外住宅地ニ恰好ノ簡易住宅」を載せる。



【表】



【裏】

千里山住宅地間取図

1923 (大正12) 年 52×38・7cm 個人蔵

貸家99戸の間取図を集めたもの。あわせて配置図番号、種類(改良式、日本式)、建坪数を載せる。なお本図は両面印刷で、表面に20種、裏面に30種、計50種の間取図を掲載している。

【附記】

新たに判明したことや調査の成果などは、2023年12月9日に開催された、関西大学ないわ大阪研究センター公募研究班「『大大阪』の時代と関西大学―山岡家文書の調査・研究を中心に―」の研究成果報告会で報告した。

【謝辞】

展示会や研究報告会にあたり、貴重な資料の貸与、使用にご高配を賜りました山岡家に深く感謝申し上げます。

2023年度年史資料展示室企画展「山岡順太郎と千里山住宅地—郊外理想郷の誕生—」

会期：2023（令和5）年4月1日～2024（令和6）年3月20日 関西大学年史編纂室 年史資料展示室

第1期 2023年4月1日～2023年7月8日

資料名	所蔵者	年代
定款	個人	1920年
大阪住宅会社ノ郊外住宅経営方針	個人	1923年ごろ
千里山住宅地平面図	個人	1924年ごろ
千里山経営地内 第三期改良家屋新築設計図	個人	1924年ごろ
千里山開発記念碑	個人	1928年

第2期 2023年7月10日～2023年9月16日

資料名	所蔵者	年代
第四回事業報告書	個人	1924年
千里会館規定	個人	1924年ごろ
議案	個人	1925年
千里山住宅地平面図	個人	1925年ごろ
千里山住宅地平面図	個人	1925年ごろ
千里山住宅地平面図	個人	1926年ごろ

第3期 2023年9月18日～2023年11月15日

資料名	所蔵者	年代
チラシ	個人	1922年ごろ
チラシ	個人	1922年ごろ
田辺町経営新築住宅間取集全部九葉	個人	1922年ごろ
鶴ヶ丘経営地住宅配置及売却土地分割図	個人	1922年ごろ
田辺町経営住宅間取図	個人	1922年ごろ

第4期 2023年11月16日～2024年3月20日

資料名	所蔵者	年代
第二回事業報告書	個人	1922年
第三回事業報告書	個人	1923年
千里山住宅家賃表	個人	1923年ごろ
千里山住宅地平面図	個人	1923年ごろ
千里山住宅地間取図	個人	1923年ごろ